

小牧市民病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名 (研究番号)	セフメタゾールとレボフロキサシン併用投与による 経腸的前立腺生検の予防効果に関する検討 (231048)
当院の研究責任者 (所属)	大西 克浩 (薬 局)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	森岡 悠 (名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部)
本研究の目的	経直腸的前立腺生検の前立腺炎という感染症を予防するために、本邦ではレボフロキサシンという抗菌薬が多くの施設で使用されています。しかしながら、近年、経直腸的前立腺生検後にレボフロキサシンが効かない細菌による前立腺炎がしばしば問題となっています。 当院では経直腸的前立腺生検実施前にセフメタゾールという抗菌薬をレボフロキサシンと一緒に使用しています。セフメタゾールは近年問題となっているレボフロキサシンが効かない細菌に対して効果を示すため、経直腸的前立腺生検後の感染症を減らす可能性があります。 しかし、これまでに経直腸的前立腺生検前のセフメタゾールおよびレボフロキサシンの単回併用投与した際の経直腸的前立腺生検後の感染症発症率に報告は未だありません。また、セフメタゾールおよびレボフロキサシンと他の抗菌薬の経直腸的前立腺生検後の感染予防効果について比較した報告は未だ少ないです。 本研究では、経直腸的前立腺生検前にセフメタゾールおよびレボフロキサシンを使用した際の経直腸的前立腺生検後の感染予防効果の評価、および他の抗菌薬との経直腸的前立腺生検後の感染予防効果を比較することを目的としています。
調査データ該当期間	2014 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日まで
研究の方法 (使用する試料等)	●対象となる患者さん 当院で、2014 年 1 月以降に経直腸的前立腺生検の際にレボフロキサシンおよびセフメタゾールもしくはセファゾリンという抗菌薬を使用した患者さんを対象としています。なお下記の患者さんは対象外としています。 1. 17 歳以下の患者さん 2. 経腸的前立腺生検後の経過が不明な患者さん 3. アレルギーなどにより、レボフロキサシン、セフメタゾール、セファゾリンの投与を中止した患者さん 4. 経腸的前立腺生検後 14 日以内に前立腺生検関連感染以外で抗菌薬を使用

	した患者さん ●利用する情報 年齢、PSA、前立腺の容積、生検した数、前立腺癌の診断の有無、感染リスク因子（尿道カテーテルの有無、残尿量、HbA1c の値、BMI、免疫抑制剤の内服の有無）、過去 6 か月間の抗菌薬の使用歴、3 か月以内の入院歴、前立腺炎の既往、前立腺生検の既往を電子カルテより後ろ向きに調査します。
試料／情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	該当なし
個人情報の取り扱い	この調査から得られた情報を患者様が安全に前立腺生検を行うためにフィードバックしたいと考えています。具体的には、学会での発表や論文への投稿になります。一方、調査した結果は個人のものとしてではなく、集団の平均としての情報が使用されます。そのため、個人を特定できるような情報が公表されることはありません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	愛知県小牧市常普請 1-20 小牧市民病院 電話：(0568) 76-4131 担当者 薬局：大西 克浩 責任代表者：薬剤師 大西 克浩
備考	本研究への参加は自由です。この研究への参加を断った場合や、参加に同意され、研究が開始された後に参加を取りやめることとなった場合においても、患者様は一切不利益を被ることはありません。また、研究への参加を同意した場合であっても、随時撤回することができます。